

1年生ワクワクスタートのヒント



幼稚園・保育所・認定こども園の時の様子を知る



- 要録の内容確認をする
- 書類だけでなく、園所に直接問い合わせる

子どもたちが園所でどのように生活し、どのように過ごしていたのかを知っておくと、1年生の生活(学級づくり)に役立つ

●入学前の引き継ぎメモを確認

●要録を確認

入学児童が在籍していた園所から学校に「要録」が送られる。そこには、子どもたちがそれぞれの園所で過ごしてきたのかが記載されている。

施設の種別で「要録」の様式は異なるが、中身(内容)は同じ

幼稚園



幼稚園幼児指導要録

保育所



保育所児童保育要録

認定こども園



幼保連携型認定こども園
園児指導要録

＊文部科学省・こども家庭庁のホームページから「様式例」を見ることができる

「様式例」では、健康・人間関係・環境・言葉・表現の5つの項目に3つの視点があり、「指導上参考となる事項」に、子どもの様子が記入されている

入学前の引き継ぎや、要録の内容に追加や補足の情報は、園所に直接問い合わせる

●「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)を一読 (P28参照)

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)はすべての子どもの到達点ではないことを前提にしつつ、一つの指標として一読しておく



場面1「話を聞く」

幼児期ではこんな工夫をしています



- 注目するように工夫する
- 注目してから話をする
- 話を聞くことの楽しさや面白さ、大切さを実感できるようにする

●子どもたちが注目するために

- ・ハンドサインや合図を活用

例：グーは「静かにしてね」のサイン
いつも決まった合い言葉

- ・音やリズムを活用

例：手遊び・手拍子のまねっこなど
じゃんけん

歌(幸せなら手をたたこう)

まねっこゲーム(保育者と同じポーズをとったり、同じ体の部分を触るなど)

手をたたく(保育者と同じ数だけ(同じリズムで)手をたたく)

手たたきゲーム(ティッシュが床に落ちるまで手をたたく)

手遊び(茶つぼ、げんこつ山のたぬきさん、でんでらりゅうば、

あがり目さがり目など)

にらめっこ・なぞなぞ(簡単なものがよい)



●短い言葉でわかりやすく

- ・「今から大事な話をします」「大事なことを3つ言うよ」など伝えてから話す

●刺激を少なく(周りの音や見えるものを減らす)

●視覚情報の活用

- ・絵や図で示す
- ・絵本・実物写真・掲示など
- ・モニターで大きく映し出す



小学校では…
電子黒板の活用



場面2「時間を意識する・見通しをもつ」

幼児期ではこんな工夫をしています



- 視覚的に分かりやすくする
- 日常の生活のさまざまな場面で意識できるようにする

●時計に印やマークをつける (発達に合わせて少しずつ意識できるように)

例:「長い針がうさぎのマークのところになったら
片付けようね」
「長い針が赤い印のところになったら外へ行こうね」
「長い針が2のところになったら始めます」



●時間を視覚化(タイマーなど)



●スケジュールや手順を表示する

- ・次に何をするか分かるようスケジュールを表示
*子どもにとって楽しみなことも入れておく
- ・すべきこと、準備するものなどを絵や文字にして順に示しておく
→トイレに行く時間の目安を伝える(活動の前にすませておく)
*聞き逃しても、忘れてしまっても自分で確かめることができる

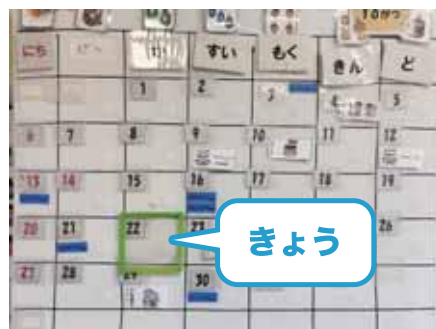


●同じ流れで活動する

- ・毎日同じ日課(流れ)にすることで、見通しをもちやすくする

●カレンダーの活用(絵や文字を使って)

- ・予定を書いて期待につなげる(行事など)
*個々の誕生日を書くこともある
- ・大きなカレンダーで視覚的に分かりやすくする
- ・昨日、今日、明日の概念に慣れるようにする





場面3「もちものの管理」

幼児期ではこんな工夫をしています



- 自分の場所が分かるようにする
- それぞれの発達に合わせて、マークや名前を表示する

●毎日準備するもの(帰る準備など)は、毎日同じ順番で確認する絵に描いて示しておく

- ・忘れてしまっても自分で確認できる

●探しやすい工夫をしておく(名前+ひと工夫)

- ・グループごとに色分けしておく
(全部の中から探すより、少ない数の中で探す方が探しやすい)
例:ロッカーに、名前+グループカラーなど
- ・必要な場所に必要な物を置いておく
- ・子どもたちの動線を考えて使いやすいように必要な物を置く

●自分の場所や物がわかるように表示

- ・園では自分のマーク(シール)と名前で自分の棚や靴箱が分かるようにしている
 - ＊3～4歳児頃は、マークで自分の場所や物を判断する
 - ＊5歳児後半は、自分の名前(字の形)を見て分かってくる
 - ＊個々の発達に応じた対応が必要





場面4「生活の場を整える」

幼児期ではこんな工夫をしています



- 場所やルールは見えない(できるだけ見える工夫をする)
- 目印はどこからでも見えるかを確認する

●ロッカーや棚の整理

- ・片付ける場所を分かりやすく表示する

保育・幼児教育施設



小学校のロッカー



物の置き方を
写真で表示

●提出物の提出場所を明確にする

- ・提出物を入れるかごに絵や写真を表示しておくことで、自分で分類して入れるようにする
- ・提出物の保管場所を明確にしておく

●その他

- ・保育・幼児教育施設では、着替えや物の整理を自分のロッカーの前の床で行うことがあり、学校では机上で整理をするという違いがある



場面5「さまざまな場面で…」

幼児期ではこんな工夫をしています



●配慮や環境の工夫をする

●並ぶ場所を視覚でわかりやすく示す

- ・先頭の部分に印(線や足形)をつけておく
- ・床にテープなどで線を引く
- ・ポイントだけ印をつける

学校の体重・身長測定



●個々に時間差が生じる活動で…

個々の時間差が生じる活動や全員が課題を終えるまでの間など、落ち着いて待てるようにするためにも、日頃から環境として用意しておく

- ・ぬり絵、迷路、折り紙、絵本などを用意しておく
- 「みんなが終わるまで、絵本を読んで待っていてね」
- 早くできたことを認めるのではなく、丁寧さを認めていく

●魔法のマイク

手作りマイクで、発表やインタビュー
ちょっと恥ずかしい時もマイクがあれば、
勇気がでたり楽しんで発表できたりする



●靴や服の着脱

- ・園では、床に座って身支度をする事も多い
発達に合わせて少しずつ立ったり、椅子に座ったりして行えるようにしている
- ・小学校では、机上で身支度をしたり、立って靴の着脱を行う



絵本(本)の活用



保育・幼児教育施設でどのように絵本(本)を活用しているのか
 知ること、入学後の活動に生かす

- ①どんな絵本(本)を見ている(読んでいる)か
- ②どんな時に絵本(本)を見ている(読んでいる)か
- ③どんなふうに絵本(本)を見ている(読んでいる)か

- 保育・幼児教育施設では、年齢や発達段階に応じてさまざまな場面で
 本や絵本を活用している
- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「言葉による伝え合い」では、

「保育者等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる」

と記されている

①どんな絵本(本)を、見ている(読んでいる)か

読んでもらう絵本(本)

- 写真や実物がかかれたもの
- 音やリズムのイントネーション、色やデザインを楽しむもの
- 繰り返しの絵や音を楽しむもの
- 単純なストーリーで繰り返しが出てくるもの
 ※小学校低学年の教科書に使われているお話など
- 物語を楽しむもの(時には絵のないものも)

※絵本(本)は、必ずしもその年齢や時期に決まったものを提供するのではなく、年長児に赤ちゃん絵本や簡単な繰り返しの絵本(本)を提供することもある。

自分で読む(見る)絵本(本)

- 大人に何度も読んでもらうもの
- 絵を見るだけで楽しいもの
- 写真や実物がかかれたもの
- 言葉の繰り返しや音のイントネーションを楽しむもの
- ストーリーや繰り返しの言葉などを覚えているもの
- 見て楽しむもの
- 写真や実物がかかれたもの
- 絵探し、迷路
- 図鑑 など

②どんな時に絵本(本)を見ている(読んでいる)か

読んでもらう絵本(本)

- 豊かな言葉や物語の世界を楽しみたい時に
- 活動前の導入に
- 興味や関心を高めたい(広めたい)時に
- 注目を集めたい時に
- 気持ちを落ち着けたい時に
(動の活動から静の活動へ)
- 活動の合間に

自分で読む(見る)絵本(本)

- 遊びの中で
 - ・友達と一緒に…
 - ・1人で…
- 活動の合間に

③どんなふうに絵本(本)を見ている(読んでいる)か

読んでもらう絵本(本)

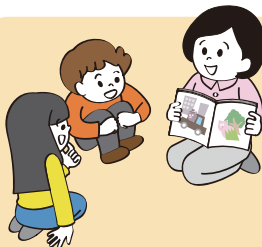


●1対1で…

乳幼児期の子どもたちは、読み手の近くに集まりそばで見たり聞いたりすることを好むことが多いです。



●半円になって…



●少人数で…



●クラス皆が集まって…



●みんなで前を向いて…

自分で読む(見る)ための環境設定

飼育ケースや 展示物の横に…

※関心をもった時に調べられる



表紙が 見えるように…

※見ることで心が動き、
関心をもつ

▲1年生の教室